

会報19号

2019年4月25日

電話 075-691-7561
発行責任者 木村信彦
編集責任者 石田房一 (代表顧問)
広報編集部 松田誠二 (広報部長)
編集委員 清水美優・西片里紗
木村亜衣・永田裕哉



*It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.
Kissyoin Rokusai Nenbutsu Odori, designated in 1983.*



国の重要無形民俗文化財指定
吉祥院六齋念仏踊り

吉祥院六齋の歴史を紐解く

吉祥院六齋の継承と地域活動



吉祥院地域の伝統芸能の継承をめぐる具体的な実践を考察し、地域で暮らす私たちが六齋念仏を通して、いかに生活の維持、活性化を図ろうとしてきたのか明らかにする。

これまで六齋念仏に関する分析や研究は、大学や専門家による産業社会学などの分野において行われてきた。

それは主に外部からの要請にいかに住民たちが地域の伝統芸能を継承することで対応しているかという研究の関心からの分析、研究であった。

しかし、その視点からでは、六齋保存会や地域住民の六齋念仏を通じたまちをどうしたいのか、そして住民がどうありたいのかを十分にすくいあげることはできなかった。

私たち六齋歴史研究会(獅子の如く)は、伝統芸能の担い手たちにとって、六齋念仏の本来ある

べき姿という概念を用いて、地域住民にとって地域の活性化、いわゆるまちづくりを明らかにする必要がある。

吉祥院六齋念仏踊り

千年の歴史を持つ六齋念仏踊りは、吉祥院六齋保存会や地域住民によつ

て継承されてきた。六齋念仏の全盛期には、吉祥院地域だけでも八組の六齋組が活動していた。

十五歳から地元青年

団に強制的に入会し、毎日のように稽古に励んでいたという。

つまり、生活の中の楽しみとして、六齋念仏は

当然のように継承されてきたのである。しかし、昭和二十年以降、強制的に入会することが厳しく

言われなくなり、必然的に衰退し、他の六齋保存会の活動が休止になるなどに伴い、働き盛りの多くの住民が地域から流出していった。

このような事態を受けて、六齋保存会だけで



存続することが厳しい状態になり、吉祥院子ども六齋会や六齋歴史研究会を発足し、六齋念仏の担い手確保を図った。

一方、運動団体が六齋念仏の保存に向けて積極的に支援しながらも地域独自のまちづくり運動のための実践を行ってきた。

現在では、地元NPO法人が六齋念仏の担い手不足にとどまらない地域が抱えている様々な問題があると想定し、NPO法人として、特に地域独自の実践である「六齋の継承と地域活性化」の運動を行っている。



裏面に続く

六齋念仏の担い手

六齋念仏の担い手は、そこで暮らしていく上での生活条件の変化をにらみながら、いつものように六齋念仏を継承していくのが望ましいが、という葛藤の中でまちづくりを志向してきたのである。

つまり、生活条件の変化に伴って、「六齋」と「まちづくり」の本来あるべき姿は変わり続けてきたのである。

六齋念仏の継承のための実践は、かつて廃絶できないような強固な組織団体のコミュニケーション機能の

実践であったということと言える。

地元団体にとって活性化とは、その地域の暮らしを支えるコミュニティの回復であり、そのあり方を踏まえることなくして、どんな地域活性化の取り組みもその地域に暮らす人々にとって地域生活の資質の向上にはつながらないのである。

吉祥院地域の伝統芸能「六齋念仏踊り」は、次世代に継承していくべき地域の共通財産であり、自らの地域を見つめ直し、地域の文化を発見し、その継承に向けた自主



吉祥院六齋念仏踊り(演目:獅子)
国の重要無形民俗文化財指定



吉祥院小学校「六齋教室」

地域文化研究への新たなアプローチ

的な取り組みを進めることが求められている。

地域の伝統芸能を支える地域住民や教育機関、民間企業との連携を図りながら、その一体的、総合的な保存及び活用を進めることで地域の魅力を創出する必要がある。

また、地域の伝統芸能の保存及び活用により、地域間の交流の活性化とともに関連する六齋保存会団体とのさらに連携を図ることである。

吉祥院地域の概要

旧吉祥院村は、昭和十一年に京都市下京区に搬入されていた。戦後までは、戦業者の8割が農業に従事しており、農村的景観は、第二次世界大戦後まで維持され、点在する農家と竹藪、かまぼこ、ちくわをつくる零細工場が立ち並んでいた。



一九六〇(昭和三五)年以降、急激な都市化、工業化が進み、それに伴って、住民の経済活動及び六齋保存会活動も必然的に変化する。近郊農村地域から第二次、第三次産業への都市化へ移り替わる。

学問の神様 菅原道真誕生の地



「吉祥院」の地名の由来は▼一二〇〇年前(八〇四)菅原道真の祖父・清公が遣唐使として唐(中国)へ渡る途中、嵐に遭遇し、舟が転覆寸前になった際、「吉祥天女」に平安を祈ったところ、空中に「吉祥天女」が顕れ、一瞬にして暴風が静まったという▼清公は、この感激と喜びを胸に無事帰国した謝恩のため、一堂を建立し、この地を『吉祥院』と称されたのが、いつしか地名として通称されるようになった▼吉祥院天満宮の境内には、菅原道真が参朝の時、顔を写したといわれる「鑑の井」や「菅公胞衣塚」など、菅原道真ゆかりの遺跡が残されている。



【第六十五期 京都人権文化講座】
 日時 六月十七日(月)
 午後六時～八時
 場所 東本願寺しんらん交流館
 二階大谷ホール
 講演 地域芸能と人権を継承
 子ども六齋会の試み
 講師 吉祥院六齋歴史研究会